



このコーナーは会員＆コメントの活動を紹介する掲示板です。
セミナーや各種とりくみのお知らせ、また、オススメの本などございましたら、ご遠慮なくご一報ください。

会員

①「3・11 震災孤児を支援するチャリティー講演会」開きました

千葉・鋸南町 森永歯科医院 森永宏喜(48)



「3月11日に震災孤児を支援するチャリティー講演会をやりたい。手伝ってくれませんか」

植田晋矢先生(群馬県開業)から話をもちかけられたのは、「大人な歯科医師の社交場」の管理人室でのこと。

といっても、そこはネット上の仮想空間。昨年来歯科界でも急激にユーザーを増やしてきたソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)であるフェイスブック(FB)に設けられた歯科医師限定グループ、Dental Forum Japan (DFJ、別名「大人な歯科医師の社交場」)の管理人専用掲示板でのやり取りだった。

DFJを創設した丹野努先生(栃木県開業)から依頼され、7人体制でDFJの運営を始めて間もなく出てきた話。以前に会報誌「Together」に



掲載して頂いた拙文(2011年8/9月号)でも触れたが、私は被災地に多少の縁がある身として震災支援に積極的に関わってきた。また「最も長期にわたる継続支援が必要なのは、おそらく教育」とかねてより考えていたところ「寄付先として『あしなが育英会』はどう思いますか」という植田先生の言葉に「全力で支援します。一緒にやりましょう」という選択肢しかあり得なかった。

7人の管理人の一人である河村光彦先生(大阪市開業)も委員に名乗りをあげて下さり、植田実行委員長のもと「3.11 Facebook発 震災復興支援チャリティー講演会」の準備はスタートした。この種の講演会の一般的な準備期間の半分程度という過密日程の中、会場の確保、演者・座長の先生への登壇のお願い、歯科関連企業への協賛依頼、そして何より一人でも多くの参加者を募

る告知活動に奔走する日々が始まった。

チラシやEメールに加えて、「イベント」や「FBページ」などFBのSNS機能をフル活用して告知・集客を行った。これは歯科界では前例が余りなく試行錯誤だったが、期日が迫るにつれて多くの方のご賛同・ご助力を得ることが出来た。当初どの程度ご協力頂けるか不安だった協賛企業も植田委員長の「診療、大丈夫だろうか」というほどの頑張りで10社を大きく超えることになった。私からお願いし快諾して頂いた数社の中に、コムネットが含まれていたのは言うまでもない。そして当日、会場の鶴見大学会館の受付には旧知の顔、FBで密かに交流しているが実は初対面の方など予想を超える人数が集まって下さり、講演、企業展示とも成功裡に終えることができた。また目標額を大きく上回る義援金も集まり感謝の言葉もない。本当に有難うございました。会場では多くの感動があり、出逢いが生まれたように思う。終了後、過分なお言葉を多く頂戴したが、得るものが多かったのはご参加の皆様よりもむしろ運営した私たちだったかも知れない。



「3.11」を挟んで、巷では多くのイベント、メディアによる特集などが生まれ衆目を集めた。

それ自体はもちろん意義深く、被災地や被災者の皆さんの支援を生み出す上で大きな力になったことと思う。まず「知る」というところからしか「行動」は生まれないからだ。

だが現地の実情を知る人の多くが危惧するように、この盛り上がりは一過性のものとなり萎んでゆく危険をはらんでいる。被災地に縁遠い場所では残念なことに「無知・無理解・無関心」がはびこりつつあるのだ。私たちが出来ることは何なのか、本当に真剣に考える時が来ている。



「toothbrush aid」は、いまだに存在する歯ブラシのニーズにきめ細かく応えるだけでなく、被災者の健康維持における口腔衛生の重要性の啓発活動にも積極的に取り組んでいる。活動の詳細はWebで検索を。

かのマザーテレサの名言に「愛の反対語は憎しみではなく、無関心」とある。ならば「温かな関心を寄せ続けること」は痛手を負った人々への愛に通じるはず。

そしてそれは結局、私たち自身や日本という国を「愛する」ことに繋がっていくように思える。

「あしなが育英会」に一時金の申請をした震災遺児は2月末で2千人を超えた。震災後にこの世に生を受けた遺児すらいる。彼らには20年の「温かな関心」が必要だ。

私たち一人ひとりの心の中にそんな「関心の灯り」をともし続けるために、これからも情報発信していければと考えている。

フェイスブックのアカウントを取得してDFJに入会しませんか？1600名を超えるメンバーが、学術から趣味まで幅広く情報交換をしております。ご希望の方はFBから筆者までご連絡下さい。